

## 国際金融動向

### ポンド対策をめぐる動き

国際金融市場は、ここ数か月ポンドを中心としてきわめてあわただしい動きをみせている。6月以降軟調をたどってきたポンド相場は、9月にはいり国際収支の大幅悪化見通しおよび総選挙接近に伴う不安人気から一段と下押し、これに対処して英蘭銀行は、ニューヨーク連銀とのスワップの一部引出し(前回は6月末15百万ドル引き出し、7月15日返済)、またパーゼル協定による欧米中央銀行からの資金援助(注)を受けるに至った。

(注) パーゼル協定による資金援助の詳細については未公表であるが、ベルギー、カナダ、フランス、イタリア、オランダ、スイス、西ドイツの各中央銀行から総額約3億ポンドの信用枠をうけ、引出し実行額は上記ニューヨーク連銀とのスワップ引出しと合わせ、40～50百万ポンド程度、実行日は9月中旬とみられている。

一般の観測では、このような国際金融協力はその後も引き続き行なわれ、また、英蘭銀行の直先市場に対する介入もかなりの額に上っているものとみられている。

ところで、英国労働党新政府は10月26日、税制面よりする貿易収支対策を中心とする緊急対策を発表したが、同時にIMFとの間に資金引出しに関しての必要な協議を行なうことを明らかにした。これは本年8月に更新された10億ドルのスタンバイの引出しに関するものであるが、今後もし英国が引出しを実行する場合、引出し額のいかんによっては、現在のIMFの主要通貨保有状況からみて、IMFが別途10か国およびスイスと締結している一般借入取決め(62億ドル)の発動などに関する問題が生ずることも予想される。

(注) 本年8月末現在におけるIMFの主要通貨保有額(8条国またはそれに準ずる地位にあり、国際収支の現況が悪くなく、かつ、現在IMFとスタンバイ取り決めを結んでいない国——オーストリア、ベルギー、フランス、西ドイツ、オランダ、スウェーデン、スイス——の通貨)は828百万ドルで、それら諸国の一般借入取決め割当額は22億ドルである。

このような英国の緊急経済政策の発表に伴い、ポンドの対ドル相場は直先とも久方ぶりに強調に転じたが、これが相場の本格的立ち直りの端緒と

なるかどうかを判断するにはなお時日を要しよう。

なお、金相場は、9月中旬以降引き続き高値を持続し、9月29日には本年にはいってはいはじめて35.10ドルを越え(建値35.10%ドル)、さらに10月2日には62年秋のキューバ危機以降最高の高値(35.12ドル)となった。しかし、下旬にはいってやや平静を取り戻し、35.10ドル程度に推移している。

### 対ドル・ポンド相場

(NY相場)

	直 物 値 (仲 値)	先 物 値 (3 か月 物 値 仲 値)	スプレッド (年 率)
	ドル	ドル	dis %
64年7月末	2.7886	2.7840	0.6526
8月末	2.7839	2.7796	0.6178
9月末	2.7832	2.7781	0.7329
10月15日	2.7837	2.7774	0.7615
16日	2.7826	2.7756	1.0062
(英国総選挙結果判明およびフルシチョフ解任) 23日	2.7827	2.7766	0.8768
26日	2.7835	2.7774	0.8765
(英国緊急経済政策発表) 27日	2.7849	2.7792	0.8187

### ロンドン金相場推移

(1オンス当り・ドル)

	建 値	終 仲 値
64年8月末	35.07%	35.08
9月10日	35.08%	35.09
21日	35.09	35.09
29日	35.10%	35.10½
30日	35.10%	35.11
10月2日	35.12	35.12
12日	35.10%	35.10½
15日	35.12%	35.11½
16日	35.12%	35.12
(フルシチョフ解任および英国総選挙結果判明) 20日	35.11%	35.11
26日	35.10%	35.10½

### 英米間短資移動の動向

英米間実質裁定金利差(先物カバー・コストを含む3か月物TB金利差)は、9月中旬来、米国TB利回りの上昇から縮小を続けてきたが、10月

## 国 別 動 向

### 米 州 諸 国

#### ◇ 米 国

##### GNP 6,275 億ドルへ

9月の生産指数(133.9、季節調整済み、1957～59年=100)は、前月比0.1%の小幅上昇にとどまったが、これはもっぱら9月25日から行なわれたGM社のストによって自動車生産の伸びが落ちたため、その他部門は一般に好調を続けている。

個人所得(9月、年率4,971億ドル、季節調整済み)も引き続き前月比0.4%(前年同月比6%)の増加となった。

建築活動(新規建築支出、9月、年率659億ドル、季節調整済み、前月比0.2%減)、小売売上高(9月220億ドル、季節調整済み、前月比1.1%減)、失業率(9月5.2%、季節調整済み、前月5.1%)などかんばしくない諸指標も散見されるが、総じて経済は着実な拡大基調を維持しているとみられる。

第3四半期のGNPは伸び率鈍化のうちにも前期比1.4%(年率にして約5.9%)増加し、季節調整済み年率6,275億ドルに達した。非耐久財、サービス関係消費の着実な増加を中心に、耐久財消費および設備投資の伸び率も引き続き大きいこと、国防支出減による連邦政府支出の頭打ちを補って余りある州・地方政府支出の拡大が続いているこ

##### GNP 増加の状況(1)

	1964年		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期
年率、億ドル	6,088 (6,013)	6,186 (6,085)	6,275
前 期 比	+ 1.63 (+ 1.11) %	+ 1.61 (+ 1.20) %	+ 1.44 %
前年 同 期 比	+ 6.5 (+ 4.5) %	+ 7.5 (+ 5.2) %	+ 6.9 %

(注) 季節調整済み。

カッコ内は1963年価格による計数。

資料: Economic Indicators およびニューヨーク連邦準備銀行。

中旬以降には、英国TB利回りの上昇(10月第3週のTB入札利回り4.723%は62年以降の最高)にもかかわらず、国際収支対策とみられる米国TB利回りの続騰に加え、ポンド先物カバー・コストの拡大から英国フェイバーの幅は、ほとんどゼロに近くなった。このため、7、8月ごろには米国から英国に向かってかなり流れた短資は、このところほとんど動意を示さず、かえってポンド不安から一部英国からの流出に転じたとも伝えられる。

もっとも、10月第4週には米国TB利回りがかなりの低下を示したため、英国フェイバー幅は若干の拡大を取り戻している。これは、英国の緊急経済政策発表により英国公定歩合の引上げが少なくともさしあたりは実施されまいとの判断が市場に反応した結果とみられるが、他面、当面の英米間金利差縮小に対処して米国当局が対英協力の観点からある程度政策的に引下げ操作を行なったともみられなくはない。

いずれにせよ、英米間短資の動きは英国の緊急経済対策が今後どの程度ポンドの安定に効果をあげるかに大きくかかっているが、この間両国当局の間の金融協力がどのような形で展開されるかも大いに注目されるところである。

#### 英 米 間 金 利 比 較

(単位・%)

	米国TB (3か月物) 入札金利	英国TB (3か月物) 入札金利	先 物 カバー・ コスト	英国への 短資流入 要 因
64年9月第1週	3.514	4.655	0.589	0.552
2	3.541	4.652	0.632	0.479
3	3.542	4.653	0.733	0.378
4	3.555	4.653	0.704	0.394
10月第1週	3.582	4.652	0.762	0.308
2	3.580	4.654	0.776	0.298
3	3.592	4.720	1.006	0.122
4	3.567	4.723	0.877	0.279

(注) 先物カバー・コストは英国TB入札日におけるコスト。